ホテルで働く

よねくらホテル宴会課・梅宮敏彦さん（青森県八戸市）

よねくらホテル宴会課、梅宮敏彦さん。「毎日、忙しいほうがいいです。たくさんのお客さまに来ていただきたいです」と仕事熱心。毎日の出勤時間はまちまちだが、必ず１時間前には出社する

写真・文／小山博孝

「本日の宴会は○○会、208名です。梅宮さんは５番・６番のテーブルを担当してください。入場の時の照明もお願いします」と宴会課のきめ細かい打ち合わせが続く

よねくらホテル。2,000名までの宴会設備をもつ、東北地区有数の大型ホテルだ

左舘典昌取締役総支配人。「同じサービスを受けるならほかの人に…、印象が悪いなど、はじめは多少、おしかりもありました。しかし本人の努力や社員の協力もあって、今日では、お客さまの理解も得られ、ホテルとしてもうれしい。がんばってきた甲斐がありました」

「いらっしゃいませ。お好みのドリンクをどうぞ」

パーティーの準備が整った会場入口に、次々に訪れるお客さまへウェルカムドリンクのサービスをする梅宮敏彦さん（二二歳）がいる。

その活躍ぶりを見学する、案内役の左舘典昌（さだてのりあき）取締役総支配人と八戸第二養護学校高等部の石岡れい子教諭。

「ホテルマンとしての仕事も覚え、お客さまとの応対もスムーズにできるようになってきているようです」

「在校中のことを考えると、今、こうして活躍する姿に感激です。左舘さんはじめホテルの皆さんのおかげです。梅宮君は、私たちの学校の在校生、後輩たちの〝あこがれの仕事人〟で、目標となっているのです」

梅宮さんは、八戸第二養護学校高等部を卒業して、一九九九年四月、よねくらホテルに入社。今年で四年目を迎える。卒業したら働きたいと考えていた梅宮さんは、高等部二年生の時から、地元の食品卸会社・スーパーなどで何度も実習を繰り返したが、就職にはつながらなかった。

同級生たちの就職先が次々に内定していく中で、本人はもちろんのこと、両親、学校の進路指導担当の先生たちもあせっていた。そんな時期、地元でも有名な「よねくらホテル」から、実習受け入れの話があった。

左舘総支配人は当時を振り返って、「あの頃、当社も八戸職親会(※)に入会して、私も役員をしていましたので、うちでも障害者雇用を考えなくては……と思っていました。そんな時、先生やご両親から熱心に依頼され、実習を受け入れました。実習する梅宮君の姿を見て、なんとかやれそうだ、働いてもらおうと決断しました」

こうして梅宮さんの入社が決定した。現在、ホテル業界でも多くの知的障害者が働いている。しかし、そのほとんどが、客と接することのない、バックヤードに限られている。梅宮さんのように表で活躍するホテルマンの次なる出現を期待したい。

※八戸職親会（岩渕正洋会長） 障害者の雇用促進と支援を図るために、1989年に地元企業と養護学校等関係機関で結成され、2001年には障害者雇用に貢献した団体として、日本障害者雇用促進協会会長表彰された。

マイクスタンドの調整をする梅宮さん

パーティーが始まった。まずはウェルカムドリンクで歓迎

滞りなく宴会の準備が進む

スポットライトの照明係もこなす

会が始まると、宴会係にとっては戦場だ。順次料理を出し、食べ終わった皿や空きビンを手早く下げ、新しいビールを補充する。お客さまや主催者に満足してもらえるよう気を配る

❶よねくらホテルが誇る3,000坪の日本庭園。社員が手分けして整備している。梅宮さんも参加する

❷グラスをみがく

❸客室のベッドメイキング

❹入社して、まず厨房での食器洗いから始まった梅宮さんのホテルマン人生。現在も、宴会係としての業務の合い間に、ベッドメイキング、庭の手入れ等…、積極的に他の仕事も手伝う

❺はしを袋に入れる

❻訪れた石岡教諭（左）と話す梅宮さん。八戸第二養護学校の歴代の先生たちの指導が実った梅宮さんの活躍だ

❼「勤務時間がその日によって違いますので、出勤に間に合うよう、起こすぐらいです」とお母さん。（右）。
「時には、急に電話があって、休日返上で、すぐ出社なんてこともあります。会社にあてにされている――と思うとうれしい」とお父さん（左）。両親の強力なバックアップが就職につながった

株式会社よねくらホテル●〒031-0022　青森県八戸市大字糠塚字蟹沢7-1　TEL　0178-43-3925　FAX　0178-45-2506
青森県立八戸第二養護学校（石井昌光校長）●〒031-0815　青森県八戸市松館字水野平20-19　TEL・FAX　0178-96-1214